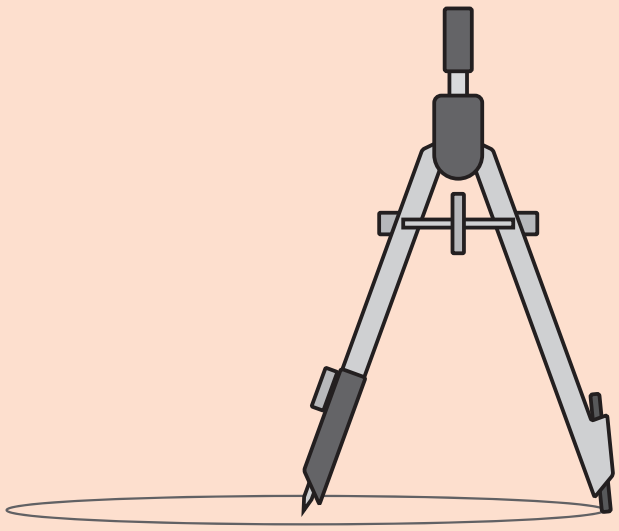
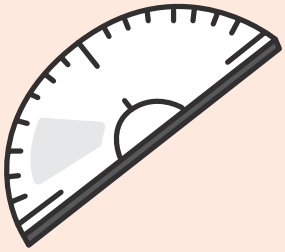
一般社団法人 日本機械設計工業会 会誌

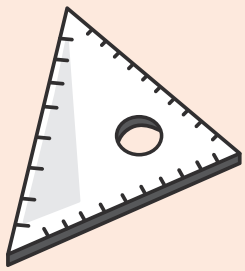
KISETU

JAPAN MECHANICAL DESIGN INDUSTRIES ASSOCIATION NEWS

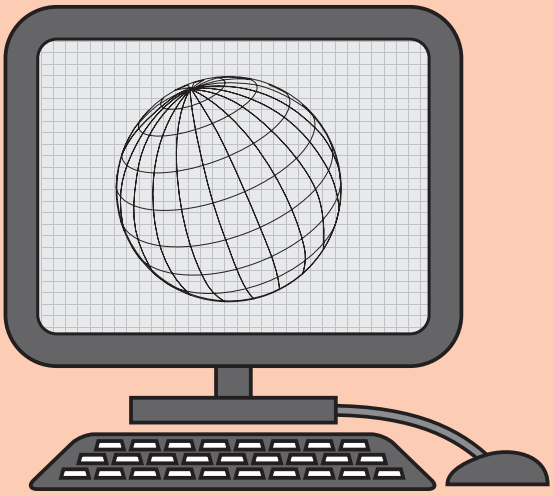




■ 令和8年度 機械設計技術者試験



no.148
2026



一般社団法人日本機械設計工業会 会誌

KISETU

JAPAN MECHANICAL DESIGN INDUSTRIES ASSOCIATION NEWS

no.148
2026

1. KISETU 目次

2. 支部だより 中部支部
関西支部
中四国支部
九州支部

14. 令和8年 JMC定時総会 研修レポート
ー杜の都に日本人が忘れかけた忠義を見た一日ー

17. 事務局レポート Model-Based Engineering Summit 2026

18. 令和8年度 機械設計技術者試験のご案内

21. PRのページ 機械力学・材料力学 基礎徹底研修

22. PRのページ 会員募集中（JMC）

23. 事務局よりお知らせ
PRのページ 会員募集中

「機 設」一般社団法人日本機械設計工業会 会誌
令和8年10月25日発行 通巻148号
定価 1部 1,000円（送・税別）

編 集 「機 設」編集委員会
発 行 一般社団法人 日本機械設計工業会
〒104-0033 東京都中央区新川2-6-4
TEL03-6222-9310 FAX03-6222-9315
発 行 人 齋田 善弘
編集制作 ダイワ企画（株）
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-10
TEL03-3254-9231（代） FAX03-3254-9234

2026年度 企業視察会レポート ～技術の歩みをたどり、歴史を学び、仲間と交流する一日～

株式会社ケィテック　代表取締役　金子　倫司

９月８日、トヨタ博物館、岐阜関ケ原古戦場記念館、トヨタ産業技術記念館を巡る企業視察会を開催しました。

この日の名古屋市内は観測史上１位となる記録的な大雨。それでも行程中は不思議なほど雨を避けることができ、傘の出番はほとんどありませんでした。

チケットの紛失や携帯電話の置き忘れといったハプニングもありましたが、それも後から振り返れば良い思い出。同業者が仕事を離れ、リラックスした雰囲気で語り合える貴重な一日となりました。



▲当日の開催案内

01　トヨタ博物館 ― 自動車が産業へ育っていく歩み

最初の訪問先はトヨタ博物館。自動車の黎明期から現代まで、世界各国の実車を通じて技術の進化をたどりました。初期の車両を前にすると、現在では当たり前となった機構の一つひとつが、先人たちの試行錯誤の積み重ねで形づくられてきたことを実感します。特に心を動かされたのは、自動車が単なる移動手段から大きな産業へ成長し、日本経済を支える存在になっていった姿でした。

私たち機械設計に携わる者にとって、自分たちの仕事もまた、その長い技術史の延長線上にあるのだと改めて感じる見学となりました。



▲自動車の黎明期を象徴する展示



▲見学の後は集合写真をパチリ

参加者の所見

古い車両を「懐かしい」で終わらせず、構造や機構に目が向くのは設計者ならでは。技術の原点を実車で確認できる、非常に密度の高い見学でした。

トヨタ博物館で見た「挑戦の連鎖」

館内には、国産自動車づくりに挑んだ先駆者たちの紹介や、日本の自動車生産台数の推移を示す展示もありました。産業としての基盤が十分ではなかった時代から、技術、材料、設備、人材を積み上げ、やがて世界有数の自動車大国へと成長していく過程は圧巻です。展示車を眺めるだけでなく、構造や機構に目が向いてしまうのは設計者ならでは。参加者同士で「この時代にここまで考えていたのか」と語り合う場面も多く、同業者で訪れる面白さを感じました。



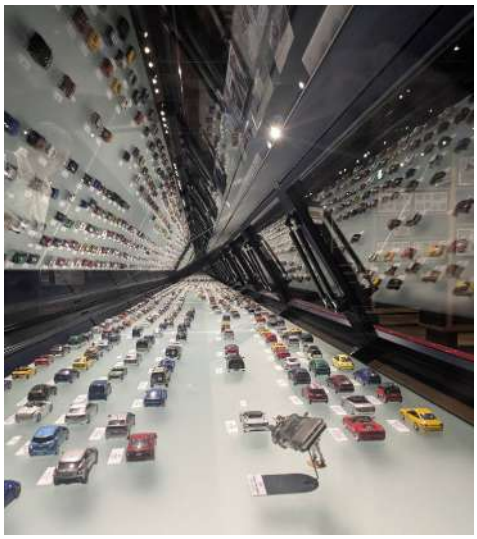
▲数字で見る日本の自動車産業の成長



▲国産自動車に挑んだ先駆者たち



▲産業の歩みを時系列で俯瞰



▲膨大な車種が並ぶミニチュア展示

02　昼食 ― 近江牛を囲んで、ひと息

午前の見学を終え、昼食は関ケ原グルメガーデンで近江牛をいただきました。美味しい食事を囲むと、仕事の話だけでなく、会社の近況や趣味の話まで自然に会話が広がります。同じ業界でありながら、普段はゆっくり話す機会の少ない方々と肩の力を抜いて交流できたことも、今回の視察会の大きな収穫でした。



▲近江牛を存分に堪能



▲食事の時間も大切な交流の場に

03　岐阜関ケ原古戦場記念館 ― 一日の決断が歴史を変える

午後は岐阜関ケ原古戦場記念館へ。ここは関ケ原の戦いを、体験しながら学べる歴史ミュージアムで、皇室の秋篠宮皇嗣同妃両殿下と悠仁さまも訪れたこともある場所です。徳川家康率いる東軍と、石田三成を中心とする西軍が激突した「天下分け目の戦い」を、映像・音響・大型スクリーンなどのテクノロジーを駆使した展示で追体験しました。教科書で知っている出来事であっても、戦況が刻々と変化する様子を臨場感のある演出で見ると、歴史が一気に身近になります。

特に印象に残ったのは、武将一人ひとりの判断や行動が連鎖し、わずか一日の戦いがその後の日本の方向を大きく変えたことです。企業経営や設計の現場でも、すべての情報が揃ってから判断できるとは限りません。「その時、何を見て、どの決断をするか」という点では、400 年以上前の歴史からも学ぶものがあります。また、皇族の悠仁さまが来館されたことがあると知り、関ケ原という場所が今なお多くの人を惹きつける歴史的な舞台であることを改めて感じました。







▲参加者全員で記念撮影　― 2026 年 9 月 8 日　岐阜関ケ原古戦場記念館 ―

参加者の所見

歴史を「知識」として見るのではなく、テクノロジーによって「出来事」として体感できる展示は非常に新鮮でした。技術は未来をつくるだけでなく、過去を伝える力にもなる。その点も、ものづくりに携わる者として興味深く感じました。

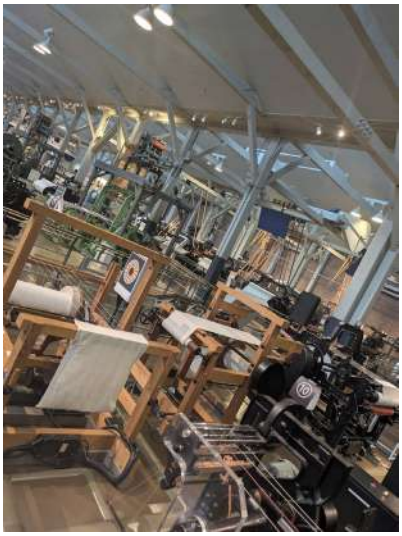
04　トヨタ産業技術記念館 ―「できるから」ではなく「実現したいから」

最後に訪れたトヨタ産業技術記念館では、豊田グループの原点である繊維機械から、自動車産業へと事業が発展していく歴史を見学しました。

自動織機が実際に動く展示は、機構の工夫が目で追えるため、機械設計に携わる参加者にとって特に興味深い内容でした。改善を積み重ね、生産性と品質を高めていく思想は、現在のものづくりにもそのまま通じています。



▲実演を交えた繊維機械の展示

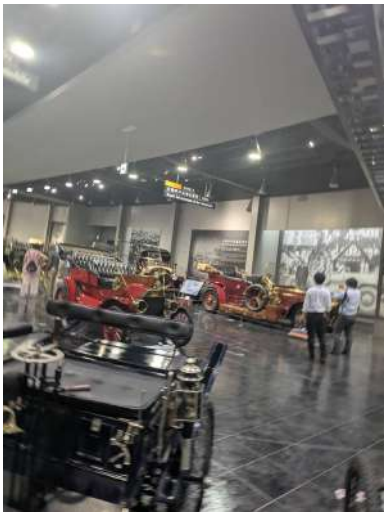


▲織機の進化を実機でたどる

中でも心に残ったのは、故豊田喜一郎の自動車づくりへの挑戦です。当時、日本で自動車をつくること自体が大きなリスクを伴う時代に、「日本人の手で自動車をつくる」という目標に向かって進んだ姿には強い感銘を受けました。

技術も設備も十分に整ってから始めたのではなく、分からないこと、できないことがある中で、一つずつ課題を解決しながら前に進んだ。その挑戦が今日の日本の自動車産業につながっています。

設計の仕事でも、最初から正解が見えている案件ばかりではありません。「できるから始めるのではなく、実現したいから挑戦する」という姿勢を、改めて胸に刻む機会となりました。



▲自動車技術の発展を実車で振り返る

視察会を終えて

今回の視察会では、「自動車の発展」「歴史を変えた決断」「ものづくりへの挑戦」という異なるテーマから、多くの刺激を受けました。同時に、参加者同士が移動や食事の時間も含めて気軽に会話し、親睦を深められたことも大きな成果です。記録的な大雨にもかかわらず傘の出番がほとんどなく、チケット紛失や携帯電話の置き忘れなどのドタバタも含めて、記憶に残る一日となりました。ご参加いただいた皆様、企画・運営にご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

加古川の歴史に触れて

株式会社ダイセツ　近藤　三紀雄

休日に少し時間ができたとき、あてもなく近所を歩いてみることがあります。遠出をするほどではないけれど、気分転換はしたい――そんなときに自然と足が向く場所の一つが、自宅からほど近いところにある鶴林寺です。

鶴林寺は兵庫県加古川市の市街地に位置しており、JR 加古川駅から車で 10 分ほどの距離にあります。幹線道路から少し入った場所にあるため、初めて訪れる方でも比較的アクセスしやすく、駐車場も整備されています。市内に住んでいると当たり前のように感じてしまいますが、こうした歴史ある寺院に気軽に足を運べる環境は、改めて考えると非常に恵まれていると感じます。

これまでも何度か訪れたことはありましたが、どちらかというと「近くにあるお寺」という程度の認識で、じっくりと見て回ることはほとんどありませんでした。しかし今回、この原稿を書く機会をいただいたことで、あらためて足を運び、その歴史や魅力をしっかりと感じてみることにしました。

鶴林寺は飛鳥時代に創建されたと伝えられる古刹で、「播磨の法隆寺」とも呼ばれています。約 1400 年という長い歴史の中で、戦乱や災害を乗り越えながら現在に至っていることを思うと、それだけでこの場所の重みを感じます。

境内に入ると、まず目に入るのが堂々とした山門（仁王門）です。木造建築ならではの重厚感と、長い年月を経てきた風格があり、一歩くぐるだけで空気が変わるように感じられます。

門をくぐると、外の喧騒とは切り離されたような静かな空間が広がっています。周囲には多くの木々があり、鳥の声や風の音が心地よく響きます。訪れた日は穏やかな天候で、やわらかな日差しと新緑が印象的でした。市街地の近くにありながら、まるで時間の流れがゆっくりになったような感覚を味わうことができます。





本堂は国宝に指定されており、室町時代に再建された建物です。正面から見ると均整の取れた美しい姿が印象的ですが、近づいて細部を見てみると、その造りの精巧さに驚かされます。屋根の反りや軒の出方、柱の配置など、どれも計算され尽くされており、日本建築の奥深さを感じさせてくれます。長い年月を経た木材は独特の色合いとなり、時間の積み重ねそのものが建物の魅力となっています。

本堂の周囲をゆっくりと歩いてみると、見る角度によって建物の印象が変わることにも気づきます。正面からの堂々とした姿に加え、側面や斜めから見たときの立体感もまた魅力の一つです。こうした視点の違いによって新たな発見がある点も、歴史的建造物を楽しむ醍醐味だと感じました。



境内にはこのほかにも見どころが多くありますが、その中でも特に印象に残ったのが太子堂です。太子堂もまた国宝に指定されており、聖徳太子にゆかりのある建物として知られています。本堂とはまた異なる落ち着いた佇まいで、静かにたたずむその姿からは、長い歴史の中で大切に守られてきたことが伝わってきます。

さらに境内には三重塔もあり、本堂と並んで建つその姿は非常に美しく、鶴林寺を象徴する風景の一つとなっています。遠くから眺めると端正な印象を受けますが、近づいて見上げると、その高さと迫力に圧倒されます。

三重塔は兵庫県指定文化財となっており、細部にわたる装飾や構造には高い技術が用いられています。各層のバランスや軒の反り具合など、見る角度によって異なる表情を見せてくれるのも魅力です。写真に収める際にも、どの位置から撮るかで印象が大きく変わるため、思わず何度も撮影してしまいました。

また、境内を歩いていると、石畳や庭の配置などにも細やかな配慮が感じられます。一つひとつは目立たないものの、全体として非常に調和が取れており、長い時間をかけて整えられてきた空間であることが伝わってきます。



こうして改めて歩いてみると、これまで見過ごしていたものが多くあったことに気づかされます。普段は何気なく通り過ぎてしまう場所でも、少し意識して見てみることで、新たな発見があるものだと感じました。

さらに鶴林寺は、観光地としての側面だけでなく、地域に根付いた存在でもあります。初詣や法要などの行事の際には多くの人が訪れ、地元の人々の生活と密接に関わっています。歴史ある場所が、今もなお日常の中に自然に溶け込んでいるという点は、とても興味深いものです。

加古川市には、このように歴史と文化を感じられる場所が身近にありますが、日常生活の中ではその価値を意識する機会はあまり多くありません。今回のように改めて足を運び、ゆっくりと見て回ることで、地元の魅力を再認識することができました。

遠くの観光地に目を向けることももちろん良いですが、まずは身近な場所に目を向けてみることで、新たな発見や気づきが得られるのではないかと思います。今回の散策をきっかけに、これからは加古川市内の他の場所にも足を運び、まだ知らない魅力を見つけていきたいと感じました。

そして、そうした地元の良さを自分自身で楽しむだけでなく、機会があれば周囲の方々にも伝えていければと思っています。



日本最大の海事都市“今治（いまばり）”

株式会社伸栄設計

当社は、愛媛県松山市の中心部にあり、機械設計･電気設計などの各種設計事業を行っている創業 41 年目の会社です。

今回は、愛媛県の産業力を象徴するまち、ものづくりのまち今治市をご紹介いたします。



今治市は、瀬戸内海に面した自然豊かなまちです。今治と聞くと、皆さんは「今治タオル」「しまなみ海道」『ご当地キャラクター「いまばりバリィさん」』などを思い浮かべるかもしれません。

今治のタオル産業は明治時代に始まり、長い歴史の中で技術を磨き、品質やデザインを高めてきたことによって、「今治タオル」というブランドが全国的に知られるようになりました。



【 織　機 】

LOOM　織布機

この機械は、整経で巻かれたタテ糸を搭載して、上下に分けられたタテ糸の中にヨコ糸を交互に挿入して、色々なタオル製品を織ります。





もう一つの大きな魅力が「しまなみ海道」です。瀬戸内海に浮かぶ島々を橋で結ぶしまなみ海道は、美しい海や島の景色を楽しめるだけでなく、サイクリングの聖地としても知られています。

さらに、今治にはもう一つ、全国や世界に誇る大きな特徴があります。それは、「日本最大の海事都市」という顔です。瀬戸内海の地理的条件をいかし、巨大な船の建造や修繕を行う「造船長屋」と呼ばれる独特の風景や、世界トップクラスの技術力と歴史が息づくダイナミックな魅力を持っています。

国内外をリードする今治造船などの大企業やグループが、日本全体の約 3 割から 4 割の船舶を建造しており、船の部品やエンジンなどを造る多くの船舶機器メーカーが周辺に集まっています。そして、世界的規模の船舶を所有・管理する企業が市内に多く集まっており、今治市によると、国内の外航船の約 30％を今治市内の船主が保有しているとされています。



このように考えると、今治は単なる船を「つくるまち」ではなく、船を“所有して世界で動かすまち”であることが分かります。一地方都市でありながら、海を通して瀬戸内海、中国地方、そして世界へと開いているまちであると言えます。

かつて日本は造船で世界首位でしたが、2000 年以降、政府の支援を受けた韓国にシェアを奪われ、近年は中国も台頭し、日本の世界市場における存在感は低下しています。そんな空気を変える引き金として、政府は 2025 年 12 月に策定した「造船業再生ロードマップ」で、国内の年間建造量を現在の倍の 1800 万総トンにする目標を掲げ、官民で 2035 年までに 1 兆円規模の投資を目指しています。

日本の造船業が国際競争力を復活させるためには、これまでの技術力だけに頼らず、新しい技術を積極的に取り入れること、若い世代の人を育てること、加えて、環境に配慮した燃料や省エネ技術などが求められています。

造船技術とデジタル技術を組み合わせれば、AI やロボットを活用した造船、自動運航船、環境に優しい次世代燃料船など、新しい分野で世界をリードできる可能性があります。

また､愛媛大学などと連携して、海事産業を支える若い人材の育成にも力を入れています。



海事都市だからといって、造船だけではありません。今治が昔から持っている「海、船、ものづくり」という強みを次の世代へとつなげるため、AI、ロボット、観光、教育、国際交流を組み合わせて、世界から人や企業が集まるまちにしていくことを目指し、7 月に「いまばりロボット未来共創都市宣言」を発表しました。

今治市は日本最大の海事都市から世界を牽引する「国際海事都市 IMABARI」へ、さらなる進化に向けて、今、動き始めています。

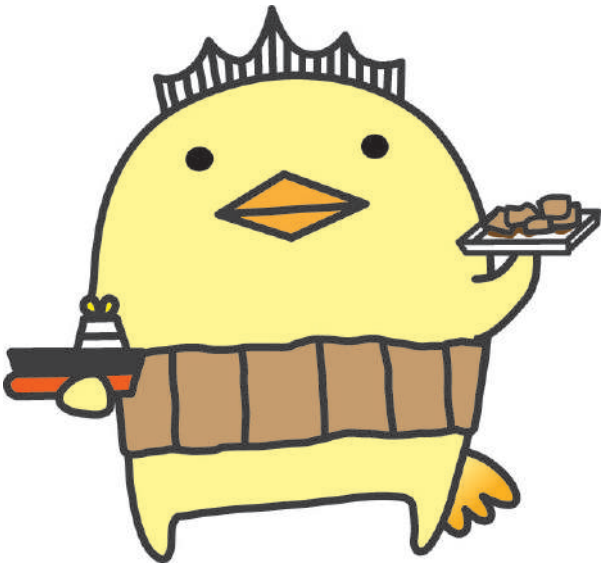
これからの今治って、どんなまちになっていくんだろう？　そう思ったら、ぜひ今治に遊びに来てください。今治の未来、まだまだ面白くなりそうです。

…とはいえ、まずは腹ごしらえを。

今治のソウルフード「鉄板焼鳥」。

「焼鳥なのに鉄板？」と思われるかもしれませんが、これがまた、うまいんよ。

食べたら、わかるけん。



©Daiichi Printing

九州支部運営委員会

北九州設計工業株式会社　藤本　昌司

9月の九州支部運営委員会は福岡県の大牟田市にあり、約60名が在籍されるという、近鉄エンジニアリング株式会社・福岡支部さんの会議室をお借りして開催しました。

何せ、今年の4月に新築・移転されたとのことで『視察の意味でもぜひ』と、無理を言ってお邪魔させていただきました。

駅から近く、徒歩で向かううちに、普段見慣れている大牟田のちょっと寂れた殺風景な町の景観には場違いな、近代的な建築物が目に飛び込んできました。

もし大牟田に観光バスの名所巡りなるものがあれば、ここもそのコースの一つになるのかな～と思いながら敷地に足を踏み入れました。







玄関を入ると、植物が配置された空間が設けられ、落ち着いた、とても綺麗でスマートな印象を受けました。

1階の真新しい会議室で気持ちよく運営委員会がスタート。

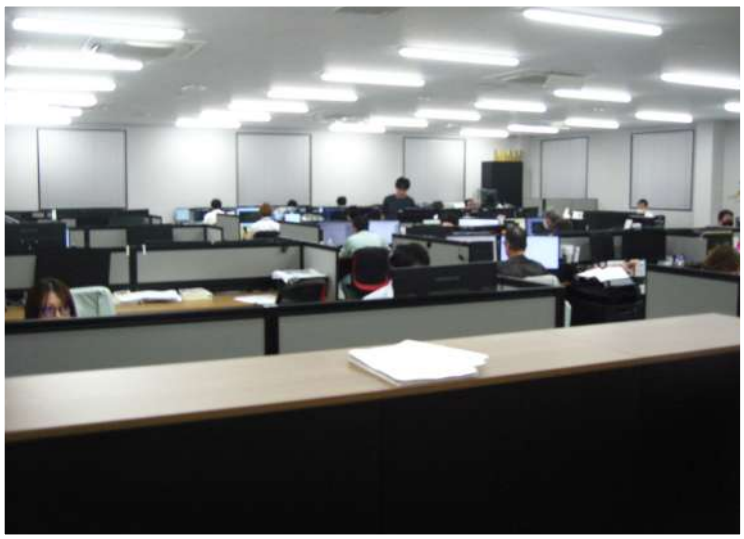
主な内容は先日の総会出席会社が少なかったことに“喝”を入れつつ、技術者試験の沖縄を含めた会場人員配置の確認をメインに行いました。

会議が終わった時点で、2階の執務室の中も案内していただきました。

広く開放的な空間で設計が捗りそうな雰囲気でした。

定時を回っていましたが帰られる方は少なく、ほぼ皆さん、業務に没頭されていました。







運営委員会の前には、朝からゴルフ組も懇親を深めてきました。会場は熊本県の玉名カントリークラブ。
御年 82 歳を迎えたばかりの DCJ ／小野会長、地元近鉄エンジの木場田統括マネジャー、小生と今回は少なく 3 名の参加でした。
小野会長はゴールドティーからでなく、白ティーからのティーショット !!
そのうちエイジシュートが狙えそうな元気一杯のプレイを披露、年齢を考えるとビックリです。
昼も率先してスタミナ定食を平らげ、まだまだ九州のボスはご健在です。

運営委員会のあとは、そば処で懇親会。
来年の大忘年会が九州支部担当ということでいろいろな案を出し合いました。
交通アクセスはどうか、地震復興を考えるか、はたまた海を飛び越えるかということまで話は盛り上がりましたが一つだけ決まったことは『九州だから料理のおいしいところで満足してもらおう！』でした。
今後、プレッシャーを感じつつも、会場選定を行っていきますので、楽しみにしていただけたらと思います。

すべてが終わった翌日のご当地お土産は、大牟田名物、1 口サイズの草木饅頭でした。
写真はありませんが、白あん入りのしっとりした蒸し饅頭で上品な甘さが人気です。
地味ですが、知る人ぞ知るという感じの郷土土産です。

令和８年

JMC定時総会 研修レポート

杜の都に日本人が忘れかけた忠義を見た一日



株式会社カンセツ　黒田　考亮

杜の都仙台の夏は涼しいと言われる、7 月 10 日晴天に恵まれた仙台の気温は 27℃。
雲一つない空のもと、前日に行われた懇親会の酒量が過ぎたせいか、二日酔い気味で迎えた仙台の朝でしたが、駅近くの朝市の見学など終えた後 JMC 総会、その後の研修に参加いたしました。

1 定時総会

総会は「ホテル JAL シティ仙台」にて開催されました。
武内会長を議長として議事進行も滞りなく進み、下記のそれぞれの議案が承認され、兼信副会長の閉会の辞により無事終了となりました。

1）令和 7 年度事業報告
2）令和 8 年度事業計画（案）
3）令和 7 年度収支報告および令和 8 年度収支予算（案）

総会後は、ホテルレストランで昼食会が行われました。
ゆっくりと時間が取れたので、総会での疲れを充分にとり午後より研修に向かいました。



▲定時総会の様子



▲総会で議事を進行

2 陸上自衛隊　仙台駐屯地

駐屯地北門に全員集合したのは14時、広報担当の方の案内で駐屯地内に案内される。

まずは、防衛館を見学。

「写真は事前確認さえしてくれればどんどん撮ってください」

広報担当のにこやかな笑顔で我々の緊張感は一気に緩和しました。

自衛隊の歴史を見るということは、戦争の現実を見るということ。

まるで歴史の教科書を見るような資料に当時の自衛官の愛国心、生き様を見た思いでした。



▲駐屯地内に展示された装備

海外支援の資料は、我々がニュース等で知る以上の現地の方々の感謝が多くの写真から見て取れました。

最後に見たのは、東日本大震災時の災害支援のコーナーでした。

災害による対応は、がれきの処理や被災者の救出だけではない、亡くなった方への弔い、残された方々へのメンタルフォロー、日々の生活を支える支援（給水・給食・入浴）など様々でした。



▲仙台駐屯地での集合写真

防衛館の見学後は、駐屯地内を大型バス内から見学、後方支援隊の整備工場を見学しました。

ここでも写真撮影はすべてオッケー、説明も丁寧で、見学時間ギリギリまでJMC会員との質疑は続きました。

今回の研修先を企画するに至っては、設計者の団体で自衛隊駐屯地を見学してどのような学び・気づきがあるのかと最初は不安もありましたが、隊の方々の真摯な対応、愛国心、我が国の平和を守るために自身を律して身体を鍛え、活動を続ける自衛官の姿に我々も一技術者として我が国のためにすべきことがもっとあるはずだと改めて背筋が伸びる想いがしました。



▲後方支援隊の整備工場の見学

3 産総研　東北センター

仙台駐屯地より 800 m先にあるため、好天の中全員徒歩で移動。

東北センターでは、ナノマテリアル試作・評価プラットフォームの見学ができ、世界でも数機しかないナノレベルに対応した試験・評価機が多くあり二班に分かれて解説を受けました。

産総研（国立研究開発法人産業技術総合研究所）のミッションは「社会課題解決」と「日本の産業競争力強化」。

一般企業とは、少し違った視点のものづくり・設計・開発への取り組みは、「ものづくり日本の復活」を期待させる内容でした。

そしてそこには、自衛隊に感じたものとは、また別の愛国心・我が国への忠義の心を感じました。

以上で、忙しくも楽しい研修の一日が終わりました。

参加された・お世話になった皆様にはこの場をお借りして、改めてお礼を申し上げます。



▲産総研 東北センター



▲ナノマテリアル試作・評価プラットフォームを見学

Model-Based Engineering Summit 2026

～変わり続ける時代に立ち向かう自動車のデジタル開発～

去る９月２日（水）、浅草橋ヒューリックホール＆カンファレンスにて、下記イベントが開催され、カンファレンスプログラムにおいて、当工業会の会員様である『南工株式会社・代表取締役社長・成本聡氏』による講演が行われました。

Model-Based Engineering Summit 2026
～変わり続ける時代に立ち向かう自動車のデジタル開発～

主催：「Model-Based Engineering Summit」
　　プログラム委員会／（株）インプレス
共催：一般社団法人 MBD 推進センター
後援：公益社団法人自動車技術会（JSAE）
　　公益財団法人ひろしま産業振興機構
　　ひろしまデジタルイノベーションセンター
　　自動車用内燃機関技術研究組合（AICE）
　　一般財団法人日本自動車研究所（JARI）







当イベントは、自動車業界における従来の実物ベースの開発プロセスから脱却し、MBD（モデルベース開発）の導入利用促進を通じて、デジタルモデルの利活用による効率化および高品質化に加え、環境規制や安全基準がグローバル規模で厳格化する中で、すべてのプレイヤーがモデルでつながる高効率な研究開発を行い、迅速な仕様変更対応と正確な製品開発環境を実現し、更に国際競争力の高い自動車産業の育成を目的として開催されました。

会場においては、自動車開発における MBD に関わる先端事例やソリューションに加え、モデル流通の最新動向や将来展望について、第一線で活躍する専門家や実務を担っているエンジニアが招かれ、講演やパネルディスカッションが展開されました。

その一例として、南工株式会社・代表取締役社長・成本聡氏による、『金型メーカーのデジタル革新・デジタルツール活用による業務プロセスのフロントローディング化』と題して、限りのある「時間」の有効活用を支援する、デジタルツール活用によるフロントローディング化の先駆けとなった解析ソフト、AutoForm の活用事例を中心に講演がなされ、傍聴者へ多くの気付きを与えつつ講演を終えました。

カンファレンスの終盤では、『変わり続ける時代に立ち向かう自動車の MBD・MBSE について徹底討論』と題し、パネリストに成本氏も加わり活発な討論が行われてました。

また、同会場において MBD/CAE 最新技術展示会が併設され、協賛企業による最新のデジタルツールやソリューションを直接体験できる場が設けられていました。

記：本部事務局

機械設計技術者試験

機械設計技術者試験は、安全で効率のよい機械を経済的に設計する機械設計技術者の総合能力を認定し、機械設計技術者の技術力向上と社会的評価の適正な確立を図り、我が国機械産業の振興に寄与することを目的としています。また、平成10年度より追加された3級は、主に新人技術者、学生の技術水準を適正に評価することを確立し、機械設計技術者認定制度を機械設計技術者のほぼ全域をカバーした資格制度に発展させることを目的としています。

令和８年度は、令和８年１１月１５日（日）実施予定

◆１級試験実施の概要、および科目

機械及び装置の基本仕様決定に必要な計算、構想図の作成等の基本設計業務を行なえる能力に達した技術者を対象とした試験を行ないます。

1級試験科目時間割（試験時間 ９：３０～１６：３０）

※年度によって科目の組み合わせが変更になる可能性があります。

	時間	科目
第1時限	9：30 ～ 11：40	設計管理関連課題、機械設計基礎課題、環境経営関連課題
第2時限	12：40 ～ 14：40	実技課題（問題選択方式）
第3時限	15：00 ～ 16：30	小論文

1級試験科目

設計管理関連課題	機械設計に関わる管理・情報等に対する知識
機械設計基礎課題	機械設計の基本となる計算課題を含む知識
環境経営関連課題	機械設計の管理者として必要な環境・安全に対する知識
実技課題 （問題選択方式）	設計実務に関わる計算を主体とした問題が複数出題され、その中から指定された問題数を選択して解答
小論文	出題テーマから1つ選択し、1300 ～ 1600 字程度の論文を作成

［実技課題］

└出題数　5題　　3題選択

◆２級試験実施の概要、および科目　※令和３年度から下記科目改定を実施

基本設計に基づき、機械及び装置の機能・構造・機構等の具体化を図る計画設計業務を行なえる能力に達した技術者を対象とした試験を行ないます。

※年度によって科目の組み合わせが変更になる可能性があります。

	時間	科目
第1時限	9：30 ～ 11：40	・機械設計分野 ・熱・流体分野 ・メカトロニクス分野 **以上、３科目はマークシート方式**
第2時限	12：40 ～ 14：40	・力学分野 ・材料・加工分野 ・環境・安全分野 **以上、３科目はマークシート方式**
第3時限	15：00 ～ 16：30	**応用・総合は記述式解答方式**

◆３級試験実施の概要、および科目

※年度によって科目の組み合わせが変更になる可能性があります。

	時間	科目
第１時限	12：00 ～ 14：00	機構学・機械要素設計、流体工学、工作法、機械製図 **全科目、マークシート方式**
第２時限	14：20 ～ 16：20	材料力学、機械力学、熱工学、制御工学、工業材料 **全科目、マークシート方式**

◆受験に必要な実務経験年数

最終学歴		実務経験年数				
		１級		２級		３級
		直接受験	２　級 取得者	直接受験	３級取得者	
工学系	大学院・大学・高専専攻科	５年	２級取得後、翌年から受験可能	３年	２年	実務経験不問
	短大・高専・専門学校	７年		５年	３年	
その他（上記以外）		１０年		７年	４年	

※１級直接受験の場合、当団体指定の職務経歴書を提出していただき受験資格審査を受けていただく必要があります。

◆１級直接受験手続き方法

1. 職務経歴書の提出→ 2. 審査料支払い→ 3. 資格審査→ 4. 審査結果報告→ 5. 受験資格承認→ 6. 受験申請（WEB 申請）です。

・当団体指定の職務経歴書の入手方法

原則、工業会ホームページ　**https://www.kogyokai.com/**　に接続しダウンロードして下さい。
或いはご希望により FAX・郵送でも対応させていただきます。
配布期間：工業会ホームページをご覧下さい。

・提出方法

郵送・宅急便・スキャナで画像化して E メール送付可
提出期間：工業会ホームページをご覧下さい。

・資格審査料　５，５００円（税込み）（支払方法は別途マニュアルにて）

※資格審査料は、資格審査が承認されない場合も返金されません。
※支払手数料等は、審査提出者の負担です。

・審査結果通知方法

審査料の入金を確認次第、速やかに審査を行い原則 E メールで通知、ご希望により FAX・郵送でも対応させていただきます。その際、承認された者には「承認 No.」を同時に通知いたします。

◆各級の受験料

１級	33,000 円（税込み）
２級	22,000 円（税込み）
３級	8,800 円（税込み）

「機械設計技術者試験」にチャレンジする人を応援！



2026 年版 機械設計技術者試験問題集

一般社団法人 日本機械設計工業会［編］

B5 判　**248** 頁　定価 **3,300** 円(税込)

ISBN978-4-274-23491-0

本書は（一社)日本機械設計工業会が実施・認定する技術力認定試験（民間の資格)「機械設計技術者試験」1 級、2 級、3 級について、令和 7 年度（2025 年）11 月に実施された試験問題の原本を掲載し、機械系各専門分野の執筆者が解答・解説を書き下ろして、(一社)日本機械設計工業会が編者としてまとめた公認問題集です。合格への足がかりとして、試験対策の学習・研修にお役立てください。



3 級 機械設計技術者試験過去問題集

―令和 5 年度／令和 4 年度／令和 3 年度―

一般社団法人 日本機械設計工業会［編］

B5 判　**232** 頁　定価 **3,080** 円(税込)

ISBN978-4-274-23384-5

本書は（一社)日本機械設計工業会が実施・認定する技術力認定試験（民間の資格)「機械設計技術者試験」3 級について、過去 3 年（令和 5 年度、令和 4 年度、令和 3 年度）に実施された試験問題の原本を掲載し、機械系各専門分野の執筆者が解答・解説を書き下ろして、(一社)日本機械設計工業会が編者としてまとめた公認問題集です。3 級の試験対策に的を絞った本書を学習・研修にお役立てください。



機械設計技術者試験準拠

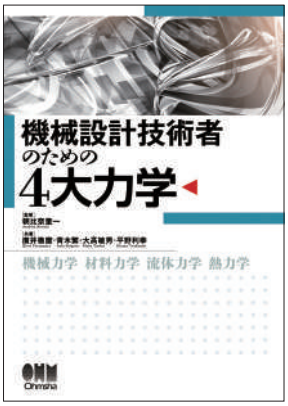
機械設計技術者のための基礎知識

機械設計技術者試験研究会［編］

B5 判　**392** 頁　定価 **3,960** 円(税込)

ISBN978-4-274-22937-4

(一社)日本機械設計工業会が主催する「機械設計技術者試験」には、本書の 9 科目が含まれています。機械系の学生が学ぶべき必須の 4 大力学（材料力学、機械力学、流体力学、熱力学）をはじめ、機構学・機械要素設計、機械を制御する制御工学、設計の基礎となる工業材料、設計の基礎となる工作法、機械製図の 9 科目です。本書は、試験 9 科目の基礎・基本、CAD/CAM をわかりやすく解説し、各章末に試験対策用の演習問題を掲載しています。力学など計算問題が多い分野は、本文中に例題を多く取り入れています。



機械設計技術者のための 4 大力学

朝比奈奎一［監修］／廣井徹麿・青木繁・大髙敏男・平野利幸［共著］

A5 判　**352** 頁　定価 **3,080** 円(税込)

ISBN978-4-274-22933-6

(一社)日本機械設計工業会が主催する「機械設計技術者試験」に対応できる構成を主眼とし、初級技術者や機械設計を学ぶ学生のために、機械力学、材料力学、流体力学、熱力学をわかりやすく解説。「機械設計技術者試験」対策として、各章末に「演習問題」、巻末に「解答」を掲載しています。

オーム社　〒101-8460　東京都千代田区神田錦町 3-1
◎ 本体価格の変更、品切れが生じる場合もございますので、ご了承ください。
◎ 書店に商品がない場合または直接ご注文の場合は下記宛にご連絡ください。
TEL 03-3233-0644／FAX 03-3233-3440
https://www.ohmsha.co.jp/

機械設計技術者試験３級・２級受験者必見！

主催：一般社団法人日本機械設計工業会

「４大力学」の壁を超えろ！

機械力学・材料力学 基礎徹底研修

～公式テキストの難所を「わかる」に変える。設計と資格の土台を築く～

※本研修は、オーム社発行「機械設計技術者のための４大力学」を主要テキストとして使用します。

こんなお悩みありませんか？

- 公式テキストを読んでも、数式ばかりでピンとこない…
- OJTでは学べず、設計の根拠が曖昧なままだ…
- 「わかったつもり」で、実務を行っている不安がある…

本研修は、機械設計技術者試験のベースともなる「機械力学」「材料力学」について、**公式テキストの内容を徹底的に噛み砕き**、実務で使える「生きた知識」として習得することを目的とします。
難解な理論も、経験豊富な講師陣が丁寧に解説。
設計力向上と、その先の**「機械設計技術者試験」合格の後押し**となることを目指します。

本研修の3つの特徴

1 公式テキストの「難所」を集中解説



独学では理解が難しい箇所や、若手がつまづきやすいポイントを厳選し、豊富な図解と事例で「なぜそうなるか」を徹底的に解説します。

2 「機械設計技術者試験」への橋渡し



当工業会主催の「機械設計技術者試験」の出題傾向を踏まえ、基礎理論が実際の試験問題にどの様につながるかを意識して講義を行います。

3 実務に活用できる演習



「ただ聞くだけ」では終わらせません。実務に近い演習を通じて、学んだ理論を「使う」練習を行い、確実な定着を図ります。

主な研修内容（カリキュラム例）

オーム社『機械設計技術者のための４大力学』準拠

【第１部】機械力学

～動きと力学の関係を「見える化」する～



- なぜ「力のつりあい」が設計の基礎なのか？
- 力のモーメントは回転運動の基礎となる
- 運動方程式と仕事・エネルギ（動力計算の基礎）
- 振動の基礎（振動を考慮した設計とは）

【第２部】材料力学

～「壊れない設計」の理論武装～



- 応力とひずみ （引張・せん断・曲げの応力状態）
- はりの曲げ （ＢＭＤ・ＳＦＤの描き方と剛性）
- ねじりと座屈 （材料による破壊のメカニズム）
- 円筒と球の応力とひずみ （フープ応力とは？）

こんな方におすすめ！

- 設計の理論的裏付けに自信を持ちたい若手技術者（1～5年目）
- 機械設計技術者試験（３級・２級）の受験を考えている方

主催・お問い合わせ

講習内容や費用等について、下記にお問い合わせ下さい

JMDIA 一般社団法人日本機械設計工業会

一般社団法人日本機械設計工業会 本部事務局

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-4 新川エフ2ビルディング4F

TEL：03（6222）9310　FAX：03（6222）9315

Email：kogyokai@luck.ocn.ne.jp URL：https://www.kogyokai.com/

新入会募集中！

機械設計技術者1級・2級のみなさまへ

会員限定サービス　1級小論文対策オンライン講座開設

日本全国から機械設計技術者の皆さんが、企業の枠組みを超え、機械設計技術の向上を目指し参加されています。
機械設計技術者1級・2級取得者の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。
JMC（日本機械設計技術者クラブ）は、(一社)日本機械設計工業会が主催する機械設計技術者試験1級および2級取得者に入会資格が与えられる機械設計のプロが集まる組織です。

試験対策・基礎学習に役立つ教材・講義動画

【増補】機械工学の要点



日本機械設計技術者クラブ（JMC）では機械設計技術者のための学習書「機械設計技術者試験に準拠した【増補】機械工学の要点」を販売しております。
機械設計技術者試験受験対策はもちろん、機械工学基礎学習用教材としてもお勧めです。

- 本体価格　3,000円（+税300円）
- B 5 判　232ページ
- 送　　料　344円（着払い）

【講義動画】機械力学・機械力学基礎

学習書（機械設計技術者試験に準拠した【増補】機械工学の要点）に準拠した「材料力学基礎」および「機械力学基礎」講義動画を販売しております。



10分程度の試聴動画をご覧いただけます



10分程度の試聴動画をご覧いただけます

note

noteアカウント《JMC》機械設計技術者試験対策コンテンツ

https://note.com/jmc_text_lecture よりお求めください。

機械設計技術者試験受験対策はもちろん、機械工学基礎学習用教材としてもおすすめです。
上記ページでは10分ほどの試聴動画も公開しておりますので、ご購入前にぜひご覧ください。

参考書・講義動画とも決済手段等、ご購入に際してのお問合せは **text.lecture@gmail.com** にてお受けいたします。

日本機械設計技術者クラブ
Japan Mechanical Designers Club

お問合せ
info@jmclub.org

ホームページ
https://www.jmclub.org/index.html

日本機械設計技術者クラブ　検索

事務局より

お知らせ

下記、変更がありましたのでお伝えします。どうぞよろしくお願いいたします。

■社名変更・株式会社化

●**中部支部会員**　笊畑機械設計 様

旧社名：　笊畑機械設計

新社名：　株式会社Ｒｅｃｔｉｅｅｒ

新URL：　https://rectieer.co.jp/

■本社移転

●**関東支部会員**　株式会社中央エンジニアリング 様

旧：　〒102-0083　東京都千代田区麹町 4-5-7　麹町パークハウスビル 3F
TEL 03-5216-4117

新：　〒222-0033　神奈川県横浜市港北区新横浜 2-13-13 TPR 新横浜ビル 3F
TEL 045-330-3360

※令和８年９月１日から業務開始

■所在地変更

●**賛助会員**　株式会社アビリカ・テック九州 様

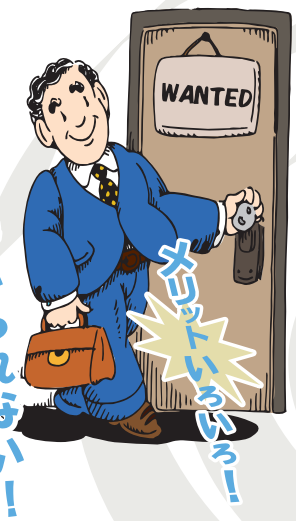
旧：　〒812-0016　福岡県福岡市博多区博多駅南 1-3-1 日本生命博多南ビル 6F

新：　〒812-0011　福岡県福岡市博多区博多駅前 1-6-16 西鉄博多駅前ビル 7F
TEL・FAX は変更ありません。

※令和８年９月 28 日から業務開始

一般社団法人 日本機械設計工業会 は、我が国唯一の機械設計業界の公益法人として
認可され、さまざまな活動を通じて機械設計業のさらなる発展に寄与しています。

入会せずにはいられない！



会員募集中！

企業年金基金・生命保険への加入
当工業会のスケールメリットを生かして、企業年金基金や生命保険への加入ができます。
いざという時の備えとなります。

機関誌KISETU
景況調査・各種アンケート結果・企業情報等が掲載された機関誌KISETUを配布。
日々の活動に役立ちます。

セミナー・講習会・研修
会員料金で人材育成・経営基準を強化するための専門情報や技術情報が入手できます。

経営者研修
アウトソーシングの時代に向け、機械設計業の経営者の研鑽を積み、経営改善・発展を図ります。

試験制度
機械設計技術者1級・2級・3級認定試験を実施。
設計技術者の社会的地位向上を図ります。

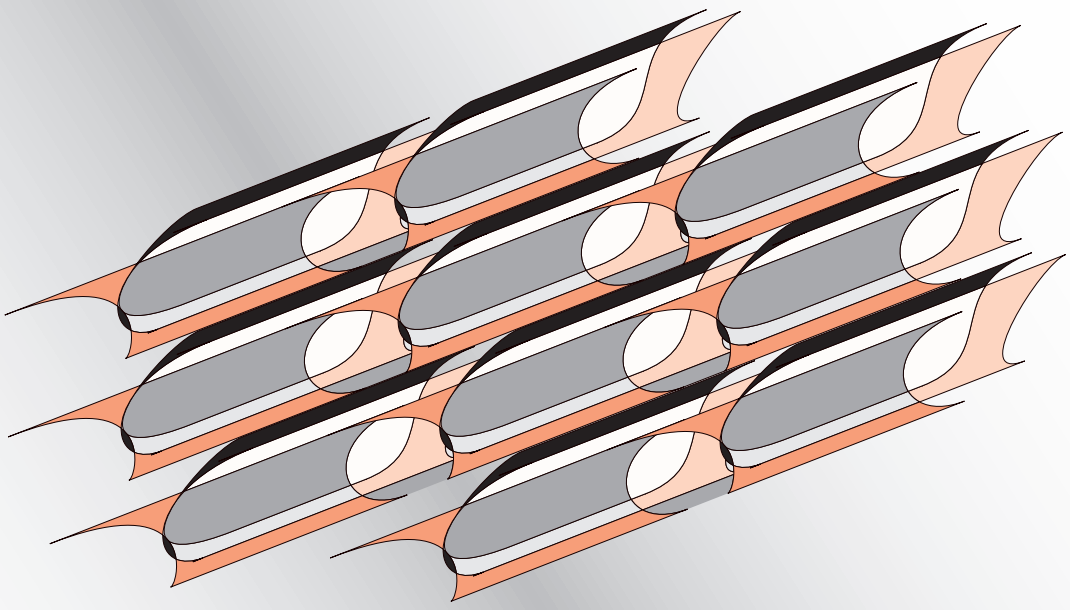
ビジネスチャンス
会員同士の交流を通じて幅広い情報を得ることができます。
ビジネスチャンスが広がり、企業の発展につながります。

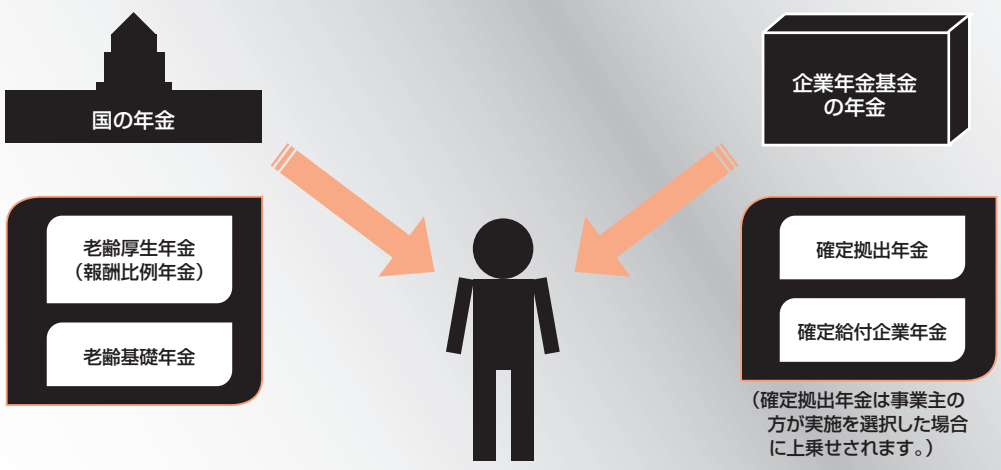
詳しくは工業会ホームページをご覧ください
https：//www.kogyokai.com

入会の申し込み・お問い合わせは

関東支部事務局　〒104-0033 東京都中央区新川2丁目6番4号新川エフ2ビルディング4階　TEL 03-6222-9310　FAX 03-6222-9315
中部支部事務局　〒460-0002 名古屋市中区丸の内2丁目14番4号エグゼ丸の内ビル6階606号室　TEL 052-253-5117　FAX 052-253-5127
関西支部事務局　〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目3番19号東洋ビル本館3階312号　TEL 06-6359-0788　FAX 06-6359-0778
中・四国支部事務局　〒737-0807 広島県呉市江原町12-30　TEL 0823-27-8640　FAX 0823-27-8641
九州支部事務局　〒806-0067 北九州市八幡西区引野1-2-14　TEL 093-622-6711　FAX 093-622-6712

「企業年金基金」で
安心な職場、豊かな老後。





国の年金に加えた年金の受給ができます

◎ 福祉事業も実施しています

種　　類	支給の時期	金額
結婚祝金	加入期間１年以上の加入者が結婚したとき（女性は退職後3ヶ月以内を含む）	10,000円
出産祝金	加入期間１年以上の加入者又はその配偶者が出産したとき（女性は退職後6ヶ月以内を含む）	1児10,000円
死亡弔慰金	加入期間1ヶ月以上の加入者が亡くなったとき	加入期間3年未満･･･20,000円 加入期間3年以上･･･30,000円
保養施設の利用補助	本人・家族が指定する施設を利用したとき	1人1泊2,000円

Pension Fund of Japan Machinery Design
日本機械設計業企業年金基金

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町14番1号
住友生命日本橋大伝馬町ビル3F

TEL.(03)3661-9501(代)
FAX.(03)3661-9503

JMDIA KISETU

発行所　一般社団法人 日本機械設計工業会
東京都中央区新川2-6-4 新川エフ2ビルディング4階
TEL.03-6222-9310

令和8年10月25日 発行 定価 1,000円
通巻148号（含消費税、送料別）